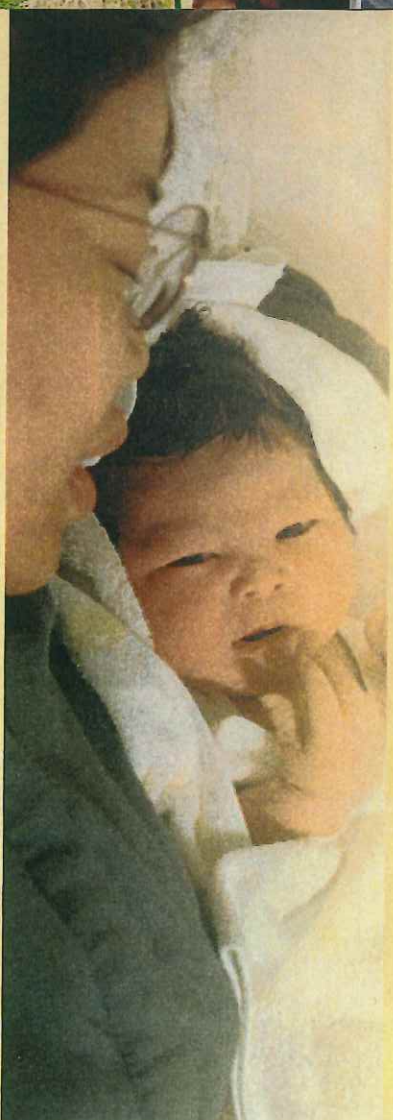


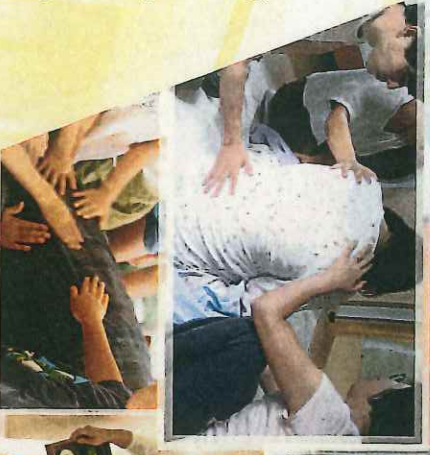
助産院でのお産を知ってほしい！ 女性たちの想いが産み出したお産ドキュメンタリー



あ、
不安はないかも。



女性と赤ちゃん、それぞれの意志と尊厳が大切にされるお産がここに。
独りじゃない。



文部科学省選定作品
令和元年度 第44回
文化庁文化芸術振興費補助金
（文化芸術分野）

わたしたちのお産ダイアリー

助産院を選んだ女性たちの記録

母から産まれたすべての人へ—

いのちの原点に向き合うきっかけをくれる感動のお産ドキュメンタリー

岡山県笠岡市にある「雫の国お産所」。助産院でのお産を選択した女性たち。彼女たちと赤ちゃんが安心して本来の力を発揮できる環境を築き、共にいのちを迎える助産師たちの日々。



出演：雫の国お産所の助産師たちと妊婦さんたち
企画：山崎まゆみ（お産ドキュメンタリー）
制作：山崎まゆみ、山崎まゆみ、山崎まゆみ
監修：山崎まゆみ、山崎まゆみ、山崎まゆみ
撮影：山崎まゆみ、山崎まゆみ、山崎まゆみ
編集：山崎まゆみ、山崎まゆみ、山崎まゆみ
音楽：山崎まゆみ、山崎まゆみ、山崎まゆみ
グラフィックデザイン：山崎まゆみ、山崎まゆみ、山崎まゆみ
2023年11月16日 公開

不安を抱えた女性たちが お産によって生まれ変わっていく

現在の日本では妊娠したら病院で産むのが主流。助産院でのお産はあまり知られておらず、多くの場合、選択肢にすら入っていない。「助産院でお産する選択肢があることを多くの人に知ってほしい」「自然なお産の素晴らしさを伝えたい」立ち上がったのは、岡山県笠岡市にある助産院「雫の国お産所」でお産を経験した女性たち。想いを形にして必要としている人に届けたいと、助産院を舞台にしたドキュメンタリー映像制作が始まった。

彼女たちの情熱に突き動かされカメラを回したのは、映像作家の田中トシヨリ。自身も子どもの誕生を助産院で迎えた経験を持つ3児の父。撮影を通して見えてきたのは、女性に対してはもちろん、赤ちゃんも1人の人格として意志と尊厳が大切にされるお産。その光景は、誰もが母から産まれてきた、かけがえのない存在だということを思い出させてくれる。そして「わたしたち」は想いを巡らせる、お産といういのちの原点に。

心までほぐれるような丁寧なマッサージ。他愛もない会話を交わし、たっぷり時間をかける妊婦健診。陣痛の間におむすびを頻頻と、リラックした表情で笑い合う妊婦と助産師たち。ずっと誰かがそばにいて、痛みのために手を差し伸べる。時に妊婦たちが集い、助産師も加わって一緒にしゃべりあふ。鳥の音がする一見すると普通の家。ここは岡山県のある助産院。心地よい風が吹き、鳥の音がするこの場所には、病院以外のお産の選択肢を求めて陣の果からも妊婦たちがやってくる。

—現代社会に対する漠然とした不安から「子を持つこと」に戸惑いを感じていた女性。
—孤独な初産を経験し、お産でいえば「不安」でしかなかった女性。
—もしも何があったら…不安が拭いきれないハイパーナーとやっていた女性。
それぞれ抱えている不安を抱えて助産院で迎えることを決めた女性たちとその家族。女性と赤ちゃんが安心して本来の力を発揮できる環境を築き、共に「その間」を待つ助産師たち。そして迎えるお産の時。

痛みを乗り越えた先に待つものは——



【このプロジェクトへの想い】 執行人：唐木佑香（「雫の国お産所」代表）
お産の選択肢を増やしたいという想いから、このプロジェクトは始まりました。それは、私たちが目の見えない、助産院、自宅、病院でのお産を経験し、それぞれの違いを感じたからです。こんなに温かくて優しいお産が出来る助産院という場所があることを知ってほしいと私は心から思っています。お母さんと子どもたちがこれまでに一緒に歩んでくださった皆様、心から感謝しております。

日時：2026年3月12日（木） 開場11:00 上映開始11:30
場所：重田家住宅（玉村町小泉42）
入場料：無料
定員：30名（先着順。事前申し込みの方にはプレゼント付）
主催：からまち前橋（生活クラブ生活協同組合群馬） 協賛：むぎとかせ助産院
お問い合わせ：むぎとかせ助産院 080-6775-5428（大谷）



チケット予約
フォームはこちらから
↓